

## 2021年度 第3回森と水の源流館授業づくりセミナー 概要報告

奈良教育大学 中澤 静男

- ◇開催日時 2021年7月30日(金)10時~12時
- ◇方法 ZOOMを用いたオンライン研修
- ◇参加者 岸下(辰市小)、新宮(平城小)、阿部(千歳小)、竹田(金橋小)、中村(朱雀小)  
川崎(耳成南小)、遠入(田隈小)、中谷(あやの台小)、福留(屋久島町教育委員会)、加藤(川上村役場)、中澤敦(近畿地方ESD活動支援センター)、大竹(学部生)、尾上・上西・古谷・木村・成瀬(森と水の源流館)、杉山・中澤(奈良教育大学) 計19名

◇内容 屋久島町の学校と奈良市の学校のテーマ共有型授業について

### 1. 奈良市立平城小学校の2019年度に授業実践の紹介(新宮教諭)

#### (1) 単元展開の概要

- ・校区を流れる秋篠川に対する児童の関心は低い

1学期 初めて秋篠川に入り水質調査を行うが、秋篠川が児童にとって「自分事」になっていない。  
仮説：水質調査だけでは自分事にならない。川の多面的機能に気づくことで自分事化するのではないか。

#### 2学期 森と水の源流館への遠足

AM：吉野川の恵みにふれる体験活動(水に関連する神社見学、川での遊び)

PM：源流館の展示より学ぶ

午前中の川遊びも含め、展示内容全てが「川の恵み」であることを伝える

川への関心が高まる→秋篠川にも役割はあるのだろうか？

吉野川の恵みに関する冊子を作成された、森と水の源流館事務局長の尾上氏を招聘し、秋篠川の役割を見つける調査方法を学ぶ。→地域の方々へのインタビュー調査

生物のすみか、野菜を育てる、米を育てる、魚を育てる、など

地域の方より昔、秋篠川で遊んだ話をしていただく → 汚れているのは当たり前ではない。秋篠川も昔は吉野川のような川だった。+農家の方から秋篠川の汚れで困っている話を聞く。

→秋篠川の汚れが児童にとって解決すべき「課題」になる。

#### 3学期 →現状把握のためのゴミ拾い・分別。ゴミの分析

→川の汚れが海につながり、海洋プラスチック問題が世界の課題になっていることを知る  
地域の課題と地球の課題がつながる

→ライフスタイルを変えよう

→やっぱり秋篠川のゴミはなくなる。無力感。→グretaさんの動画を見る

→自分たちも大人にうたえよう→地域での発信・世界遺産学習全国サミットでの発信

→地域での大人を巻き込んだチームの結成・地域でのイベント化

#### (2) 平城小学校の取り組みに関する意見交換

- ・始めから全ての展開を決めて授業実践していたわけではないと思うが、見通しがよくわからない授業をやっていく、柔軟性が素晴らしい。←5年間にわたる授業づくりセミナーを通した源流館との信頼関係が、根拠のない自信につながり、授業を作ることができた。

- ・校内に賛同者をつくっていく工夫は？→児童の変容を職員室で話題にし、関心層を増やした。
- ・児童に振り返りを作成させるポイントは？→うまく作成できた児童の振り返りを児童の前で紹介した。児童同士の学び合い。

## 2. 屋久島町教育委員会の取り組み（福留指導主事）

FURUSATO MIRAI MEETING 2021：テーマ共有型授業の展開

### (1) 屋久島町のESDの課題と課題解決のきっかけ

屋久島型ESDに取り組んできたが、マンネリ化・イベント化し、現状維持になってしまっている  
→2019年度奈良市世界遺産学習全国サミットに参加

ポスターセッション会場で「水」をテーマに発表されていた都祁小学校の岸下教頭に出会う  
全体会で平城小学校の発表を見る。発表者である新宮教諭、質問した岸下教頭とつながる。

### (2) テーマ共有型授業

#### ①テーマ「水」

辰市小学校の取組（岸下教頭）

岩井川・ため池を活用した農業 ため池や川を大切にしている文化があることに児童が気づく  
→ゴミ拾いするようになる

→水源地である山添村とつながる

#### ②テーマ「川と海」

都祁・辰市・平城一口江良部島安房小学校

地域を知ることが大切

オンラインを積極的に活用し、発信力を高めることで、児童の責任感を育てる

### (3) 共有型授業実践に関する考察

- ・想定外がしだいに想定内になっていく  
→（岸下）広まっていくためには、教科の内容とつなげていくことが大事←教員の意識改革  
企業や事業所とつながり、応援団をつくっていく←取組環境の整備
- ・奈良の子どもへのメリット 平城小の子どもには、川の役割を学んだ経験がある。共有型授業に参加することで、川と海のつながりが身近になっていく。
- ・オンラインでは知識や情報は伝わるが、「感覚」「感情」「感性」は伝わりにくい。手紙・作品交換・実物交換などのアナログも大切だ。
- ・つながる、つなげることの意義  
人と人がつながることで、関心が高まる。探究する楽しさを体感できる。魅力ある授業の枠組みが徐々に見えていく。授業が変わっていくことで子どもの変容が見え、それが教員の変化につながる。
- ・テーマ共有型でスピードを維持するためには、グーグルフォルダーを使うと便利。  
特別なイベントにしない。隣にあるクラスと共有するように、普段使いを心掛ける。
- ・教員・社会教育施設・実践者・大学などをつなぐオンラインコミュニティが求められている。
- ・屋久島は離島であるが、川上村も陸の孤島だ。よく考えると日本全体が島国だ。さらに近年はコロナ禍で全国の市町村が孤島になった。オンラインでの交流・教員研修が求められている。発信によって責任感を養うのは、その意味で全国に通用する方法。サミットで発信してほしい。特に動画による発信は、反応が期待できる。
- ・学校間の共有型授業で終始することなく、地域の方や観光関係者など、広げていくことも大切。

2022年2月10・11・12日に屋久島では世界遺産学習全国サミットを対面で開催予定

